

学校教育目標	「強く 正しく 共に生きる 下末吉の子」 ○自ら学び、自ら考え、問題解決する子どもを育てます。【知】 ○自分や人を大切にできる心の豊かな子どもを育てます。【徳】 ○生命を尊び、心身ともに健康な子どもを育てます。【体】 ○地域や人との豊かなかかわり合いを通して、共に生きる子どもを育てます。【公】 ○様々な社会の変化に、柔軟に対応できる子どもを育てます。【開】				
	創立 70 周年	学校長 江口 和良	副校長 坂本 直人	2 学期制	一般学級： 6 個別支援学級： 2
学校概要	児童生徒数： 166 人 主な関係校： 末吉中学校 駒岡小学校 末吉小学校 上末吉小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	末吉中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力> <問題発見・解決能力> <情報活用能力>	末吉中学校 上末吉小学校 末吉小学校 駒岡小学校 下末吉小学校	学校・家庭・地域の中で育つ、夢と希望に向かって努力できる子ども ○児童、生徒指導の情報の共有化のための定期的な情報交換 ○「末吉中学校区スタンダード」の運用・検討 ○児童・生徒及び教職員の交流活動並びに地域との交流の活性化 ○義務教育9年間の学びの連続性を軸とした授業参観・授業公開

中期取組目標	「下小70周年 未来に繋ごう下小のバトン！」～見つめる→繋げる→広げる～ ○創立70周年を機に、小規模校ならではの本校のよさを見つめ直し、持続可能な学校づくりを進めます。 ○本校児童のよさを伸ばしつつ、「学力向上」や「中一ギャップ解消」などの課題解決に具体的に取り組みます。 ○コロナ禍で教育的価値を再確認できた地域との繋がりを教育活動に取り戻します。 ○「共有・参画・らしさを発揮」をベースに、働きがいのある職場づくりを進めます。
--------	--

重点取組分野		具体的取組
知	確かな学力	①読書・漢字(熟語)学習・視写に取り組み、語彙力・表現力を高める。②重点研では、ICT機器の活用に取り組み、児童の情報活用能力の育成や思考力・表現力の向上を図る。③教科分担推進により、教科の専門性を生かした授業の実施や少人数・TTによる指導の充実により、児童の学力向上を図る。
担当	重点研・チーム学年経営	
徳	豊かな心	①たてわり活動では、各学年の役割やめあてを明確にし、自己評価や他者評価によって自尊感情を高め。②学校生活の様々な場面で、褒められる機会や交流の機会を意識的に創出し、より広い視野で認め合う学習を積み重ねて自尊感情を高める。
担当	特活・道徳	
体	健やかな体	①休み時間の外遊びについてスタンダードを見直し、ボール遊びや用具遊びなどを充実し、体力を高めるようにする。②学校保健委員会や給食指導を通して、児童・家庭・学校が健康生活への思いを共有し、コロナ禍でも健康な毎日を送る本校のよさを継続する。
担当	体育・保健	
公開	70周年記念	本校のよさを「つながり」と捉え、①学年・学級をつなぐ②全校児童をつなぐ③地域とのつながり④その他のつながり(SDGsなど)を各テーマにした活動を展開する。
担当	70周年PJ	
いじめへの対応		①日常に潜むいじめについて積極的に認知し、子どもの心情に寄り添うことを徹底する。②月1回以上定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過確認を丁寧に行うことで再発防止に努める。③年2回の児童理解・いじめ防止研修を実施して、全職員がいじめに対するアンテナを高くするとともに、年2回のYPアセスメントと児童アンケートにより些細な変化を見逃さない体制づくりをする。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)		①低中高各ブロックにブロックリーダーを配置し、常に授業や行事の計画、児童指導関連事項の共有ができる体制をつくり、ブロックでの人材育成を進める。②全学年で実態に応じた教科分担を導入し、学級担任の担当教科(時数)を削減する。また、それにより各職員の教材研究の質を高め、授業改善を進める。
担当	チーム学年経営・メンターチーム	
特別支援教育(多文化共生)		①定期的に特別支援委員会を設け、全職員が連携して支援を行い、適切に個別の指導計画・教育支援計画の作成と振り返りを行う。(毎月)②特別支援教室の積極的運用を進め、国際教室対象の児童も含め、特別な配慮が必要な児童への支援のシステム構築を進める。
担当	特別支援教育委員会・国際教室	
児童指導		①「スタンダード」が現在の社会情勢に合うよう、常に検討・修正をして、子どもにとって分かりやすい内容にする。②職員会議内に児童理解の内容を定例化し、児童の状況を共通理解する。③「Y-Pアセスメント」を活用し、多面的な児童理解と具体的な支援・指導を実践する。④登校が滞りがちの児童へのこまめな連絡や学習の支援の在り方を探りなどについて、関係者が「共有・参画」の意識をもって組織的に対応する。
担当	児童指導専任	
読書活動推進		①コロナ禍で実施を見合わせていた保護者ボランティアによる読み聞かせを再開し、またモジュールでの読書活動を実施して、児童の読書活動への興味関心を高める。②学校司書を含む学校図書部が鶴見図書館など外部機関と積極的に連携して情報を提供するなど、単元開発や授業支援で学校図書館の機能を積極的に活用する。
担当	学校図書	
a15		
担当		